

「作品を私の部屋だと思って見て下さい」と、初の個展を開いたMU なをみさん＝中央区銀座6丁目で



芸術空間 私の部屋へようこそ

女性アーチストが銀座で個展

鏡、冷蔵庫、段ボール、動物の骨などあらゆるものに手を加え、作品にしたインスタレーション（空間表現）の個展が、中央区銀座六丁目の画廊リュ・プラスで開かれ、若者たちを引きつけている。作者は千代田区在住のアーチスト、MU

なをみ（本名・村上尚）さん（三〇）。七年間の米国留

学の成果を見てもらおうと、「準備中」と題し個展を開いた。

十畳間ほどの画廊は、床も壁面も作品だらけで、足の踏み場もないほど。ガレージセールで買った小物や拾ったトランク、段ボール箱に色鉛筆や油性ペンで動物を彩色したものに交じり、ビン詰めの虫の死がい

も。カーペットにはびたや寝袋も置かれている。

鏡台を神棚にし、絵の具箱を開けるとシマウマの絵が飛び出す。大好きなスヌーピーが、ビタミンの錠剤一個一個に描かれ、冷蔵庫の中にはその人形が入っている。愛用の自転車の風切りは、置物の馬の頭部を細工したものだ。

なをみさんは日本の高校を卒業後、米サンフランシスコに留学、七年間、さまざまなテーマを学んだ。米国では、壁、鏡、ケーキ、スイカ、瓶などにスヌーピーを描き、駐車場を借りて展覧会も開いた。

「アート活動とは自分の日常の一部で、生き方そのもの。作品と思わず、私の部屋をのぞきに來てくださーい」と話している。

同展は二十五日までの正午から午後七時まで（最終日と日曜は午後五時まで）。無料。作品は希望者があれば販売する。